

柏崎民商会報

16年11月14日

〒九四五〇八二一
新潟県柏崎市穂波町十三番二十二号
TEL (〇二五七) 二二二一九九七 (代)
FAX (〇二五七) 二二一九三〇七

福島原発事故被災地視察 本気で原発に依存しない町づくりへ



災害被災者支援
と災害対策改善を求
める全国連絡会（略
称・全国災対連）が
11月4日（金）〜
5日（土）に福島県

いわき市で災害対策全国交流集会を開催し、全
国から約200人が参加。柏崎市災対連からは
3人で、武井事務局長も参加しました。

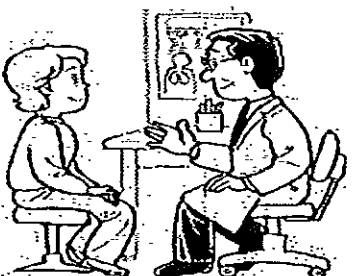
初日は、いわき市駅前から国道6号線を北上
して、福島原発第一・第二がある楢葉町・富岡
町・大熊町・双葉町、そして浪江町まで大型バ
スに乗り被災地視察。福島第一原発入口付近の
放射線量は一時間4.02マイクロシーベルト
で、完全に人が住めない状態。除染する基準量
は0.23mSv/h。局長が2年前にも行ったこ
とのある浪江町は車中でも0.55mSv/h。浪
江町の駅前付近は今も、事故発生直後のままの
状態が残っています（9年前の中越沖地震直後
の東・西本町どおりなどの店舗等が解体状態）。

二日目は、原発事故いわき訴訟原告団長の伊
東達也氏が「東京電力福島原発事故から5年8
カ月 福島からの訴え」を講演。「5年が経って、
とんでもない惨状をもたらした」。「6町村が5
年間人口ゼロ」「5年経っても絶えない震災関
連」。「放射性廃棄物の中間貯蔵施設は永久貯蔵
施設に?」「帰還宣言をしても住民は簡単に戻れ
ない」「帰還困難区域は未だ除染計画も帰還計画
もない」などを訴え、「加害者である東電や政府

などに解決を求めるのが当たり前なのに、被害
者同士が分断され、対立させられている」と問
題点も語られました。日本の原発立地と運転の
危険性を訴え「いまこそ『原発に依存しない町
づくり』を広く共有できるように」と強調し、
呼びかけました。
市長選は、本気で原発に依存しない町づくり
へ、対立から協働のまちづくりへ―勇気をもっ
て「安心の未来」を選択しましょう。

男女ともに、増えている大腸ガン 12月3日と4日に実施、必ず検診

大腸ガンは、50〜6
0歳代から増えています。
昨年、大腸ガンのために
人工肛門を付けたA会員
さん（68歳）は「肛門
のちよつと先の直腸。指
で触れる4・5センチの大きなポリープが見つ
かり、8時間の手術だった。お腹の正面に人工
肛門をつけたて。これから商売を続けていく自
身がねえて…」と先行きの不安を当時、話して
ます。A会員さんは一度も大腸ガン検診を受け
たことがなかったようで悔やんでいました。仲
間と家族を誘い合つて検診しましょう。申込み
締切が18日です。詳細はウラ面を。



パソコン会計教室は今月21日(月)

今年度7回目の教室。ワークプラザ柏崎。午
後了時。参加は自由です。詳細は事務所に。

